

(5) 1977年4月5日

破闢会事務局からの基調提起のあと、山中明氏の講演に移った。山中明氏は、一時間以上を越す熱弁の上で、戦後の階級闘争、とりわけ戦後日本資本主義の復活過程と人民の闘いをアジアの階級闘争の連鎖の中で提起された。一九五二年防法成立過程における階級攻防とこの闘いを取り北へ導いた日本「共産党」の批判を総領位相までふみこんで鮮明にして、今日、我々のなすべき任務を明らかにする

激化する破防法社会化攻撃と 闘う陣型の更なる強化を！

三月一八日、破防法と闘う会主催、「破防法社会化攻撃と闘う反弾圧労働者集会」が一五〇名の結集をもつてかちとられた。

同盟はこの集会の全成果をふまえ、更なる闘いの組織化に向こうことを、全ての諸君に呼びかける。

統々と結集する同志・友達の

講演のあと、集会は労働戦線から報告がなされた。教育社労組、全国一般三和産業分会、山谷統一労組、住友重機運送二組有志の会からの報告は、権力の弾圧と権力の同喝に屈服し、帝国主義の同伴者として自らを純化した排外主義潮流の統制のもとであつた。

庄毅という二重の敵対をはねのけて原則的な労働運動を遂行している立場を表明し、勝利に向けた決意が一点の、もろいもな述べられた。

続いて、獄中七年、非転向の闘いを続けていた防爆法「被告」塙

見事也君から集会に之保険却下弾劾・破陸のアピール。更には四下の中で闘い続けて、
対同盟からのアピール
た。破闖会はこの三重のアピールを支持し、

卷之三

3.19 戦争、強固なスクラムで機動隊の壁を突破するわが同志

全国の同志、友人諸君！　游
擊　読者諸君！　三・一九福田訪
米阻止―日米首脳会談粉飾闘争は
わが共産主義革命戦線の領導の下
羽田現地における大爆発をもつて
戦取された。米日「韓」反革命体
制と、日帝の朝鮮侵略反革命の強
化攻撃の機先を制するプロレタリ
アートの断固たる反撃は権力弾圧
をねのけて圧倒的に貫徹された
のである。

れた権力・機動隊の大弾圧網を、一糸乱れぬ組織的行動をもつて、ち破つたわが共産主義革命戦線会場の南浦公園に圧倒的の登場をひとり、会場中央に陣取つた。治闘部の各部隊が次々と到着し、中で午後二時キックカリーに、事務の同志から開会が宣言され簡明三・一九闘争の決意が表明され続いてこの集会に寄せられた防法と闘う会、沖縄ひめゆり自

電文) アピールが行なわれ、とりわけ、わが破壊会の同志からは、はつきりした。局銀に打たれ、壌民兵保険却下攻撃彈劾、保険奪還闘争勝利の鮮明な方向性が提起され、ひときわ大きい拍手にてイギリスの共感を集めめたのである。

さらには集会は党派発言に移り、その最後に立つたわが同志は、日本帝の朝鮮侵略反革命を国内戦に転化せよ! との七〇年代後期一八〇年代初期を貫く革命党建設の

單純の隊列は第一京浜に押しかけ、機動隊の壁をグイグイと突きこし、まくり、一路羽田へと進撃しつつ、そして解散地近く、わが部隊は文字通りあの九・三〇戦闘再開する肉弾戦をもつて機動隊を急存分じゅうりんし、プロレタリートの怒りを叩きつけたのである。革命的情勢のはじまりと、今までのこの闘いの位置は決定的である。

みどり生協闘争パンフ
とり生協闘争の更なる前進を!
みどり生協労組
カンパ 200円

要領
とは
お会いには、かくとしておこうと、地獄
つぶしを行なおうと、
(生協組合員)をストやぶ
員し、また国労大船支部元
柴田をみどり生協理事(今方
に抜てきするなどしてきました
の公判では、こうした攻撃政
「みどり生協組は車のガソ
を抜いたり、ドロボーまが
とを行なつて」 といふ
中傷をふれまわつた生協ク
協理事河野による内部文書

域住民
りに動
委員長
傍担当
。今回
の中で
ソリン
いのこ
悪どい
ラブ生
が存在

エヴィキ倅

義の革命党建設へ更に前進せよ！

到達段階	共産主義者同盟中央委員会
と資本主義・帝国主義批判	
義批判と唯物史観	山下
(I)	沖田方
界の階級闘争とプロレタリアート	
天皇権力と	
力問題	山下
と軍事—武装問題の基本的視座	沖田方
争の戦略問題の根底的止揚	
に付する行動上問題	
	第一

共產主義革命戰線、

手

塙鉄塔決戦へと連動する闘いと
務政治共闘の展望を鮮明に提
し切り、この日の闘いへの決意
明を行なったそしてこの発言が、
一九の闘いの基調を決した。
モに移り、まさに羽田から飛び
とうとする日帝富田への猛攻が、

立たせるもの、つた。かの口、プロ青が、羽田現地にお聞きから全く召還し、坂本町にておける市民デモに紛れさんとにそれは蒙徴されていん。主義への屈服と転落を深める部分との対決を強め、さらによ。

(五ページよりつづけ)
四ト
ける
たのである。
これを「火として折戸は
ボロを出し、劣組の生々生
糾鬥の正当性を裏付ける重
「河野文書」の存在が明らか
り、動搖した折戸は同様に
わが

次々と
協来賓
要証拠、
かとな
した社

定価 1500円
A5判 408頁

ボルシェヴィキ創刊号

政治報告
マルクス・レーニン主義の革命党建設へ更に前進せよ！

第1部 綱領思想と資本主義・帝国主義批判 資本主義批判・帝国主義批判と唯物史観

国際連産主義運動総括(1) 沖田友士

第2部 過渡期世界の階級闘争とプロレタリアート 日本資本主義における天皇権力と プロレタリアートの権力問題 山下 誠 過渡期世界の革命戦争と軍事一武装問題の基本的視座 沖田友士 一条論文「大衆的武装闘争の戦略問題」の根底的正揚

山下 誠

定価 1500円
A5判 408頁

マルクス・レーニン主義に貫かれた革命的労働者学生の鋭利な政治的武器！ 革命党と階級、人民の直接的紐帯！ 帝国主義心臓部へ向けた総蜂起を組織する宣伝・煽動の指針！ 共産主義者同盟政治機關紙『遊撃』を読もう！

毎月1回5日発行！ 10回分2500円(密封・ 送料共)

定価1部150円

『遊撃』を党の組織者

として更に打鍛えよ

昨秋戦取され、企總一総蜂起
線の下、同盟は三重環錠搭、決戦
はじめとする春期階級激笑戦
その最先端で闘い、領導し抜
くまつて争ひ、

に転化しうる黨の政治、組織内実を獲得するために、今日、全党が総力をあげ、命がけの飛躍を準備し、実現していること、すなわち旧同盟政治局多数派腐敗分子追放かかる全體的力量の獲得、これは推しすすめることを抜きにして、りえな、
大衆の自然発生性に溶解し、
自的反乱から形成される事件に

はあはの即ちを断言することができるだろう。とりわけ、昨年九・三〇天皇派米阻止戦闘、昨年一一・一〇年簫爆破闘争という二つの政治決戦の過程で、我々は『遊撃』を

かかる『遊撃』——機関紙活動の大、党的独自活動の強化を基礎とした階級領域における政治——組織の貫徹を通じ、今春期の全

治的煽動におくもの
見おとすおそれが最も
ある。：このような
社会民主主義的組織
らない柔軟性を保障

こそ、革命を
も少ないので
紺織だけが、
なくてはな
するであろう、
かかる觀点にたち、
の拡大
党建設

機関紙活動—— の飛躍を紙数一 に物質化せよ

と結びついて、地方
の第一期でもあるの
革命情勢の端初を切り
としての『遊撃』の活躍
つたことを明らかにす
る。まさに党建設の第

るものである。一期は『遊撃』のいただ。折よく武器もなくして、その周囲に結集させ、総攻撃を起動することによって、戦闘的人民を党に言えども、『遊撃』を通じて、大衆と向かい合い、大衆のテストを受けるものである。

的読み込み、政治・組織方針の明確な把握を通してこそ、「遊撃」が生きた武器になるのである。

そして、以上を真に具体的に表現するものとして、読者数の拡大

タブロイドの意義
に、その綱領
すなわち「
タブロイド化の獲得を
更なる飛躍の基礎とせし

『イスクラ』のよ
も、戦術も、組織

する全国政治新聞の具現化情勢の端緒における飛躍として具体的な飛躍が、^{主張}の全党的飛躍が、^{主張}発行を通じてからじつに確認すると共に、この登場が『遊戯』自体の普遍性が定期大量の発行、読者層

『季』の編集
されたことを
飛躍の過程
性の獲得——
数の増大——
方法である。具体性として貫徹さ
れ得ない原則は原則ではない。
何よりもまず金員が『遊撃』
を自らの日常的活動——戦闘の場へ
目的意識的に持ち込むということ

一組織的の前提的条件として、各党員が「遊撃」を通して徹底的な思想統合を一層推進せねばならぬ。各成員の目的意識的学習活動の更なる強化と成員相互の点検活動

機関紙局アピール

元の組織者

取してきたこと、日々激化する治安維持との原則的対峙の下で、
『遊撃』が名実共に全国政治新聞として
たりうる爲の基礎的条件、いわばは

機関紙活動における勝利的展開をかちと
を、我々は、今、誇認することができる

「第一期」のこと以外にはありえないと、
革命情勢のとある。合法法領域における活
躍をもつて確実に開拓する。

いというこ
見おとすおそれが最も少ない」と
端初に立ち、
述べ、更に「新聞は集團的宣伝者
および集團的煽動者であるだけ
ではなく、集團的組織者でもある」
ける活動の準備・

『遊撃』から『共行』という決定した。惟認しておかねばならない。第一は、以上の確認を踏まえ、『遊撃』の飛躍をかちとるために、我々が日常的に遂行しなければならない。また次号よりの戦取が確定的な第種郵便物指定は、地理的・財政的条件を有利なものと変えるであろう。

